

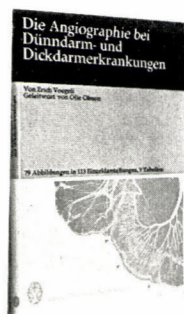
□書 評□

Die Angiographie bei Dünndarm
und Dickdarmerkrankungen

—Archiv und Atlas der normalen und
pathologischen Anatomie in typischen
Roentgenbildern Bd. 103—

Erich Voegeli 著

名古屋大学医学部放射線科
佐々木常雄



著者はスイス・ベルンの Insels-
hospital の新進の放射線専門医（診断）
で、X線診断の専門家である。自験
例 225 例を中心としてベルン大学放
射線科（Prof. Fuchs）、ルンド大学
放射線科（Prof. Olsson 及び Boi-
jsen）の資料も参照して広く研究し、
小腸および大腸の診断について新し
い情報を提供し、また新しい検査手
技について簡単にまとめている通読
しやすい良書である。

小腸ならびに大腸の X 線検査は従
来から腹部単純撮影、バリウム造影
検査により行なわれてきたが、著者
はここに新しく選択的血管造影法を
導入し、小腸ならびに大腸の血管を

支配している上腸間膜動脈ならびに
下腸間膜動脈を選択的に造影した。
対象とする症例はこれら血管系に起
因するものや、二次的に血管系に影
響を及ぼすものであり、次のような
ものである。i) 急性循環障害すな
わち腸管虚血症、腸間膜動脈硬塞な
ど、ii) 腸出血症、iii) 炎症性腸疾
患すなわち Crohn 氏病、潰瘍性大
腸炎、iv) 腫瘍性腸疾患すなわち良
性腫瘍—腺腫、筋腫、脂肪腫、線維
腫、血管腫など。悪性腫瘍—癌腫、
肉腫、リンパ肉腫などである。さら
に病理解剖所見との関連、血管造影
所見の読影のほか、病態生理学的解
説を加えて分かり易く記述している。

この症例解説に先だって正常な血管
解剖について模式的に説明し、実際
の症例の読影を容易にしている。

その他、選択的血管造影手技に伴
う合併症についても述べ、患者の側
に起因する条件—動脈の硬化性変化
動脈の攣縮度などについて述べ、ま
た術者の側に起因する条件—カテー
テル操作による血管の損傷、検査時
間の長さ、カテーテル抜去後の局所
の圧迫の程度などについて述べ、合
併症をもたらす種々の条件について
簡明に解説している。また、造影剤
の副作用についても簡単にふれてい
る。以上が本書の内容のあらましで
あるが、症例の血管造影写真の焼付
も良好であり、その説明も適切で分
りやすい。

小腸・大腸の疾患の X 線検査にお
いて選択的血管造影の果たす役割に對
する認識が高まりつつある今日、本
書の出現は Post graduate student、
実地臨床医家にとって大いに参考に
なるものと考えられる。

Georg. Thieme Verlag, Stuttgart
¥13,200, 125頁, 79図, 1974
(医学書院洋書部取扱い)